

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年11月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891200016		
法人名	有限会社 ひだまりの家		
事業所名	グループホーム 花あかりの家	ユニット名	1階
所在地	〒313-0106 茨城県常陸太田市下利員町1262-1		
自己評価作成日	平成21年7月9日	評価結果 市町村受理日	平成21年10月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	まだありません
-----------------	---------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年8月20日	評価確定日	平成21年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ol style="list-style-type: none">1. 入居者とスタッフが一緒になって農作物を作り、季節に応じた新鮮な野菜を食べる事ができ、美味しい食事が提供出来る。2. 外出やお誕生日会などの様々な行事を毎月開催している。3. スタッフ間のコミュニケーションがとれているので、色々な問題が起きた場合でもスムーズに話し合いがもたれ解決出来てと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の広い敷地内で多くの野菜を利用者と職員が栽培し、採れたての新鮮な野菜を食材としている。</p> <p>室内で2匹の小型犬を飼い、利用者は動物と触れ合うことで楽しい時間を過ごしている。</p> <p>職員間の協力体制が確立し、利用者の支援が円滑にできている。</p> <p>事業所の自動販売機を地域の人々も利用するなど、自然な形で利用者や職員は地域の人々と関わりをもって暮らしている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みな理念を理解しているが、スタッフの人数も増えてきたため同じように理念を理解するのが難しい。具体的にどのような実践をすることが共有することにつながるのか模索している。	管理者と職員は法人の運営倫理や理念、基本方針を朝礼時に復唱している。 職員は理念を書いたカードをネームプレートの裏に携帯している。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所独自の理念を作成することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には、近くを散歩したり、外出の時に地域のグラウンドを利用させてもらったりして交流を深めている。	利用者と職員は地域で行われる運動会や祭りに参加するとともに事業所主催の納涼祭に地域の人々が参加して交流している。 住民と話し合い地域のグラウンドを散歩やお花見に利用させてもらっている。 事業所の自動販売機を地域の人々が利用するなど、利用者や職員は地域の人々と自然に関わりをもって暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の中での対応に追われ、なかなか地域に広げることができていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月間の間に行われた行事や、前回指摘された評価などについて、結果、状況報告を行っている。地元といっても、馴染みのない花あかりという家に住み始めた認知症の方たちがどうやったら地域社会の中に入っていけるのか、よりよい関係を目指して話し合っている。	運営推進会議は自治会長や民生委員、老人会会長、市議会議員、市職員、事業所関係者で構成している。 事業所からの報告や外部評価を公表しているが委員からの意見や要望、質問等が出るまでには至っていない。	次回から運営推進会議に利用者や家族等の出席を予定しているので、会議の活性化を期待する。 運営推進会議で委員から多くの意見が出るよう取り組むとともに、出た意見をサービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二か月に一回の運営推進委員会を実施し現状報告を行い担当者と話し合いをしている。	行政の担当窓口で無料相談窓口のパンフレットを置いてもらい、事業所のPRをしている。 キャラバンメイトの資格を有する職員がいるため、認知症サポーター講座の協力ができることを市関係者に伝えている。 3ヶ月に1回市内のグループホームの勉強会で、市職員と意見交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な講習会は実施しているが実技的な面での職員の対応では難しい状況。	職員で話し合い身体拘束が利用者にならば弊害を理解するよう努めている。 終始徘徊する利用者がいるため、居室以外の数箇所の出入り口を利用者では開けられないよう高い位置で開閉制限している。	利用者の徘徊する原因を把握し、要因を取り除くよう工夫するなど、開閉を制限せず、自由に出入りができるように検討することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所者に対してのふるまい方や対応の仕方などを見ながら、問題と思われることに関してはミーティングなどで取り上げ見直していくようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修等で学ぶ機会はあるものの、他の職員は理解するまでに至っていない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	社長、ケアマネ、施設長の方で事前に話し合い理解を得ている。また、重度化に伴う機器等についてはその都度家族と連携をとり話し合っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来た際に意見を聞く。	管理者や職員は家族等や知人などの訪問時に気軽に話しができる体制をとっているが、要望や苦情等を記録するまでには至っていない。 意見箱を設置するとともに重要事項説明書に事業所や第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。	家族等や知人などからの意見や要望は些細なことでも記録に残し、職員で共有するとともに出た意見を運営に反映させることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを実施しそれらの意見を十分に聞き反映されている。	管理者は職員の意見を聞く体制を整備しており、棚を設置し利用者の誤飲するような物の整理をするなど職員から出た意見や気づきを反映している。 職員はケアにあたり不便なことや利用者にとっても不便と思われることを話し合っ改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	係を設けるなど、スタッフ一人一人が責任、やる気を持ち環境の整った職場で仕事ができるよう考えています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら技術や知識を身につけていけるように少しずつ教えていくようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	おもに施設長が同業者との交流を通じて質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談をし、本人に直接話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談をし、家族に直接話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者やケアマネと相談しつつ、その入居者に応じた支援やリハビリを実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、されるといった関係でなく、ともにすごしている家族のような温かい関係になれるよう、それぞれできること、できないこと、好きなこと嫌いなことなど把握に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族がよりよい関係を保てるよう、なるべく面会に来ていただくようにと促したり、何か変化があった時には必ずご家族に連絡するようにして関係を保つようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか以前と同じように行きつけの場所に行ったりすることはできないので、地元のお店に買い物に一緒に行ったりして出かけるようにしている。	利用者がこれまで築いてきた関係が継続できるよう支援に努めているが、利用者の意向にそった支援をするまでには至っていない。	利用者全員の生活歴を把握するとともに、家族等の協力を得ながら、利用者のこれまでの馴染みの人や場所との関係が継続できるよう取り組むことを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事など、できることを何人かにお願ひしてそれぞれ協力してやっていたりなかでお互いが協力し合い、支えあえる関係を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴を知り、その人にいちばん合った援助の仕方を見つけ出せるように努力している。	職員は利用者の思いや意向を把握しフェイスシートを作成している。利用者の行動を見ながら、今何がしたいか、どこに行きたいかを把握し、利用者本位の支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境も違ってくるため今までの馴染みの暮らし方ができない入居者もいると思うが、できるだけそれに近いものを目指し、なおかつ健康で安全な生活がおくれるよう支援している。	/		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの、できることやできないことの把握やそのときの心身状態の変化によってどのように対応を変化させていくべきか考えながら援助している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが家族や本人の意向、医師、看護師の意見も取り入れながらよりよく生活できるように作成している。			利用者や家族等、職員、医療関係者の意見や要望を聞き介護計画を作成するとともに見直しをしているが、全職員が介護計画を確認するまでには至っていない。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたことはケース記録に記入し、申し送りで確認、翌日の朝礼や月1回のミーティングで取り上げ計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人に合った対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が近くのお店に買い物に行ったり、散髪に行く事によって地域の人と関わりを持ちながら豊かな暮らしが出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診を支援している。	利用者や家族等が希望する医療機関への受診を支援するほか、協力医療機関を確保し定期的な受診を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中はほぼ看護師が常勤しているので何かあった場合は報告、相談し適切なケアが出来るように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況を常に把握し家族や病院関係者と相談をしながらスムーズな対応を目指す。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設長、ケアマネとの相談のうえ対応する。	現在は看取り介護はしていない。	利用者が重度化した場合の対応について、早い段階から利用者や家族等、管理者、職員、関係医療機関と話し合い、方針を共有するなどの取り組みを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な講習会は実施しているが実技的な面での職員の対応では難しい状況。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と協力し災害の発生に備えて避難訓練を実施している。地域との協力体制に関しては今後の課題である。	昼間や夜間を想定した避難訓練を実施しているが、訓練後職員で話し合った結果を記録するまでには至っていない。 地域の人々の協力を得るまでには至っていない。	避難訓練後の話し合いを記録し反省点を明確にしておくことが望まれる。 今後は地域の人々に協力を要請することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格は尊重しているものの、プライバシーに関してはほとんど話していないのでこれからの課題である。	職員は利用者の人格を尊重しながら支援するよう努めているが、利用者への声かけやトイレ誘導時に配慮が欠けている場合がある。 浴室は出入りが自由でプライバシーを配慮するまでには至っていない。	利用者がトイレを使用する際にはカーテンを閉めることが望まれる。 利用者への声かけは相手の顔を見ながらの対応が望まれる。 浴室は仕切りを設けるなどプライバシーに配慮することを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自己決定できる利用者が少ないので、声かけはするものの本人がどう動きたいのかまで気づくところまではしていない。今後の課題である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフに余裕のある時は一人ひとりのペースに合わせてかかわっていくようにしているが、人数が少なかったりするとこちらのペースで動いてしまっていることも少なくない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助者が多いが、なるべく職員と一緒に食事を摂る事を心がけている。また食事作りにかかわれる利用者がかかわってもらい、あとかたずにも参加していただく。	事業所の畑で収穫した新鮮な野菜が食卓に並び利用者は収穫の喜びを話しながら食事をしている。食材の下ごしらえは利用者同士で行っているが、食事の準備や後片付けをするまでには至っていない。行事の献立は利用者の希望を聞きながら作っているが、日常の献立は担当者が作成し、利用者の希望を聞くまでには至っていない。	利用者が食事の準備や後片付けに参加できるような支援を期待する。日常の献立に利用者の希望を取り入れるほか、専門家のアドバイスを得ることが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日記録している為すべてにおいて把握している。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	前もって早目の声かけを心がけ失禁を防ぐ努力をしている。なるべくトイレでの排泄を心がけているが体に負担のかかる利用者については無理せず横になった状態で排泄の確認をしている。	排泄チェック表を付け早目の声かけで失禁を防ぎ、トイレでの排泄を支援している。夜間は居室にポータブルトイレを置き、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と十分な水分補給を心がけ、それでも困難な場合は薬を使用し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	スタッフの人数によって曜日や時間帯を決めて入浴してもらってる事が多い。なるべくその人が希望する時間帯に入れてあげられるような努力はしている。	週2回の入浴を支援している。 職員の都合が優先されるが、職員の手が空いている時に利用者の入浴希望があった場合は入浴ができるよう支援している。 入浴を拒む利用者の入浴支援には苦慮している。	利用者が楽しんで入浴できるように職員の都合を優先することなく、利用者本意の入浴を支援することを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせ、いつでも休めるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常の記録を参考にしつつ施設長、ケアマネ、医療関係と相談のうえ服薬調整に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の役割を見つけ安心して落ち着ける環境づくりを支援し、毎月外出や買い物、ドライブの計画をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方に無理の無い程度で外出の件をお願いしているが、現実には難しい。	職員は利用者の体調を見ながら、日常的に散歩や庭に出て過ごす時間をつくっている。 遠出の外出は職員が定期的に計画し実施しているが、利用者の希望を聞くまでには至っていない。	外出の困難な利用者に対しても家族等や地域の関係者の協力を得ながら利用者の希望する外出ができるよう取り組むことを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今の状況で本人にお金を持たせたり、使えるようにさせるのは困難。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	場合に応じて手紙や電話などで外部との交流をはかり家族との関係、関わりを大切にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって居心地のいい環境を支援している。	利用者にとって不快や混乱を招くような音や光に配慮している。 利用者が描いた水墨画や季節の花、人形を置き落ち着いた雰囲気の中で過ごせるよう工夫している。 居間が居心地良くなるよう配慮されているため、利用者はいつも集まって過ごしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフの目が届く範囲で独りで過ごせる空間や共用で過ごせる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく本人が昔使ってた物や愛用していた物を居室に置いて本人にとって安心して、住みやすい環境づくりを支援している。	ベッドと3段の衣装ケースがあり壁に家族等の写真などが掛けてあるが、馴染みの品物の持ち込みは少ない。	利用者が使い馴染んだ物品や思い出の品物と共に過ごせるよう、家族等に働きかけ持ち込んでもらえるよう取り組むことを期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に歩行出来るように色々な場所に手すりの設置をしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 花あかりの家

作成日 平成21年11月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所独自の理念を作成することを期待する。	事業所独自の理念を作成する。	事業所独自の理念を簡単明瞭に作成し、皆が理解できるようにする。	2か月間の間に作成する。
2	4	次回から運営推進会議に利用者や家族等の出席を予定しているので、会議の活性化を期待する。運営推進会議で委員から多くの意見がでるよう取り組むと共に、出た意見をサービスの質の向上に活かすことを期待する。	会議が活性化し、サービスの質の向上に活かす。	サービス向上に活かせるような意見が家族や委員の方から引き出せるような会議にする。	すでに家族の参加を実行した。
3	6	利用者の徘徊する原因を把握し、要因を取り除くよう工夫などで開閉を制限せず、自由に出入りができるよう検討することを期待する。	徘徊する原因の把握、要因の除去、自由に出入りできる環境作り。	利用者の行動範囲を広くし、開閉の制限を極力少なくするため環境作りを心がける。(検討する)	2～3カ月の間に検討する。
4	10	家族等や知人などからの意見や要望は些細なことでも記録に残し、職員で共有するとともに出た意見を運営に反映させることを期待する。	意見要望の記録をとり、運営に反映させる。	定期的に家族と連絡をとり、意見要望を聞き記録し、出た意見を職員会議で話し合う。	2か月間の間に実施する。
5	20	利用者全員の生活歴を把握するとともに、家族等の協力を得ながら、利用者のこれまでの馴染みの人や場所との関係が継続できるよう取り組むことを期待する。	馴染みの人や場所との関係継続の支援をする。	できるだけ地域の行事に参加したり、家族からの情報を参考にし知人の訪問も快く受け入れる旨を家族に伝える。	2か月間の間に実施する。
6	26	介護計画は全職員が把握するとともに、計画にそった支援を行うことを期待する。	介護計画を全職員が把握する。	ミーティングの時にスタッフの意見を出してもらい、把握し、各入居者のプランに活かしていく。	6か月の間に実施する。

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
7	33	利用者が重度化した場合の対応について、早い段階から利用者や家族等、職員、関係医療機関と話し合い、方針を共有するなどの取り組みを期待する。	重度化、終末期に向けての方針の共有と支援を行う。	家族の希望を最優先し、管理者、職員、関係医療機関と話し合い、方針を共有し、備える。	2か月の間に実施する。
8	35	避難訓練後の話し合いを記録し反省点を明確にしておくことが望まれる。今後は地域の人々に協力を要請することが望まれる。	災害対策の記録、地域との協力体制の確立。	毎月のミーティングの際、話し合い、記録を明確にする。地域の人々に参加を呼びかけ避難訓練を実施する。	2か月の間に実施する。
9	36	利用者がトイレを使用する際にはカーテンを閉めることが望まれる。利用者への声かけは相手の顔を見ながらの対応が望まれる。浴室は仕切りを設けるなどプライバシーに配慮することを期待する。	1人ひとりの人格の尊重、プライバシーの確保のための言葉かけや対応をする。	早急に仕切りを設ける。1人ひとりの人格の尊重、プライバシーの確保のための言葉かけや対応についてその都度、またはミーティング時に話し合いをする。	1か月の間に実施する。
10	40	利用者が食事の準備や後片付けに参加できるような支援を期待する。日常の献立に利用者の希望を取り入れるほか、専門家のアドバイスを得ることが望まれる。	楽しい食事の支援、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをする。	食事の準備や後片付けに参加できるよう考え、支援する。日常の献立についても希望を聞き、取り入れる。専門家のアドバイスを受ける。	2～3か月の間に検討する。
11	17	利用者が楽しんで入浴できるよう職員の都合を優先することなく、利用者本意の入浴を支援することを期待する。	入浴を楽しむ支援、利用者本意の入浴支援	積極的に利用者本意の入浴支援に取り組む。	年内に実施する。
12	49	外出の困難な利用者に対しても家族等や地域の関係者の協力を得ながら利用者の希望する外出ができるよう取り組むことを期待する。	利用者の希望に沿って、家族、地域の人々と協力しながら外出の支援をする。	利用者の希望を取りまとめ外出により四季折々を体感できるよう家族にも協力を要請し、スタッフの協力のもとに支援していく。	今後随時実施する。
13	54	利用者が使い馴染んだ物品や思い出の品物と共に過ごせるよう、家族等に働きかけ持ち込んでもらえるよう取り組むことを期待する。	居心地の良い居室にする。	家族の方に協力していただき馴染みの物を持ち込んでいただく。	家族の方に協力していただき3か月の間に実施する。

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。